

第113回 県内企業景況調査

当研究所では、県内の景気動向を探るため四半期毎に県内企業景況調査を行っています。このほど、2018年8月に実施した調査結果を下記のとおりとりまとめました。

ご多用のなかご回答頂きました皆様に厚くお礼申し上げます。

【 調 査 要 領 】

1. 調査目的：県内企業の業況と経営動向の把握および県内景況判断資料の作成
2. 調査対象：県内主要企業459社（回答企業数368社、回答率80.2%）
3. 調査方法：郵送によるアンケート方式とヒアリング方式を併用
4. 調査期間：2018年7月30日～8月31日
5. 調査対象期間：2018年4～6月期 **実績**（前年同期比）
 2018年7～9月期 **実績見込み**（前年同期比）
 2018年10～12月期 **見通し**（前年同期比）
6. 調査事項
 - (1) 業況判断 (2) 売上高 (3) 受注残高 (4) 在庫水準
 - (5) 操業度・稼働率 (6) 雇用人員 (7) 販売価格 (8) 仕入価格
 - (9) 採算（経常利益） (10) 資金繰り (11) 経営上の問題点
7. 回答企業属性

(1) 業種別回答企業数

業種	項目	回答企業数	
		社数	構成比
製造業	輸送機械	11	3.0
	一般機械	12	3.3
	電気機械	11	3.0
	食料品	23	6.3
	窯業・土石製品	6	1.6
	その他	25	6.8
非製造業		280	76.1
	運輸	48	13.0
	水産	4	1.1
	建設	45	12.2
	卸売	70	19.0
	小売	44	12.0
	サービス	55	14.9
	その他	14	3.8
全産業		368	100.0

※構成比は四捨五入の関係で合計と必ずしも一致しない。

(2) 売上高別回答企業数

業種	製	運	水	建	卸	小	サ	そ	合	
										造
売上高	5億円未満	16	15	0	4	6	4	14	2	61
	5億～10億円未満	16	11	0	7	12	5	8	4	63
	10億～30億円未満	35	11	4	19	29	11	18	4	131
	30億～50億円未満	5	3	0	7	4	3	9	1	32
	50億～100億円未満	7	6	0	3	9	10	2	2	39
	100億円以上	9	2	0	5	10	11	4	1	42
合計	88	48	4	45	70	44	55	14	368	

BSIについて

BSIはビジネス・サーベイ・インデックス（Business Survey Index）の略で、回答企業の「好転・増加・上昇」とする企業割合から「悪化・減少・下落」とする企業割合を差し引いた指標のことである。例えば回答企業のうち30%で業況が好転し、10%の企業が悪化した場合、BSIの値は30-10=20となる。BSIのプラスは好転、マイナスは悪化とみることができる。

【要 約】 景況感の改善足踏み、先行きも弱含み

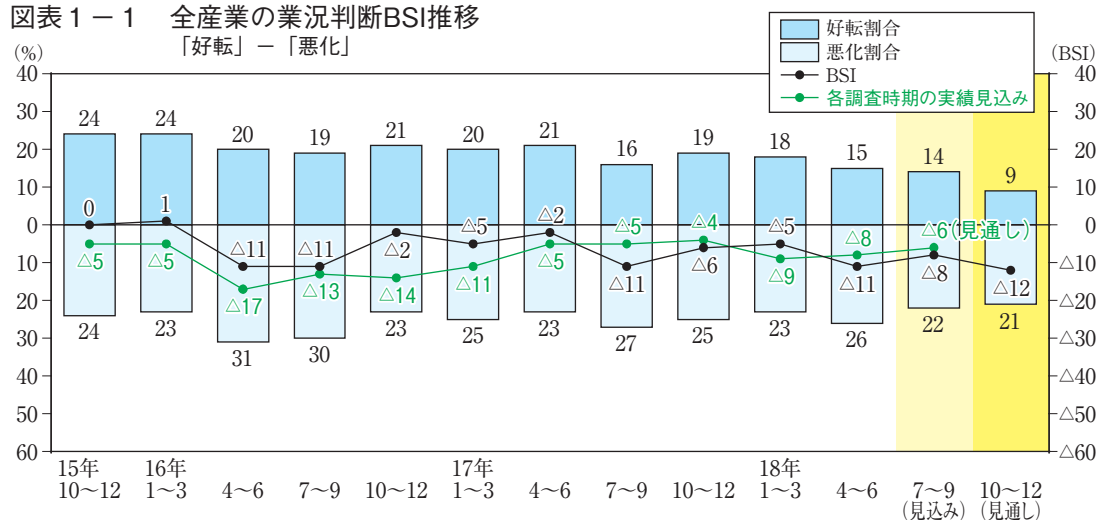
- 県内企業の業況判断BSIをみると、2018年4～6月期実績は△11と1～3月期（△5）から悪化した。足もと7～9月期の見込みは△8に持ち直しも前回見通し（△6）を下回った。先行き10～12月期は△12まで悪化し、景況感は弱含む見通し。
- 主要製造業が概ね高めの操業を維持し堅調推移、公共投資・住宅投資は高水準を維持し横這いの状況。こうしたなか、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の世界遺産登録の効果から、足もとの景況感は観光関連の業種を中心に持ち直し。もっとも大雨や台風、記録的な猛暑などの天候要因もあって持ち直しの動きは弱く、先行きについても原油高の影響などから弱含む見通し。
- 製造業の業況判断BSIは、18年1～3月期実績1から4～6月期実績△2（前回見込み並み）とマイナス圏となり、7～9月期△4（前回見通し△3）、先行き10～12月期も△6と小幅ながら悪化の見通し。
- 非製造業の業況判断BSIは、18年1～3月期実績△8から4～6月期実績△14（前回の見込み△9）へ悪化。足もと7～9月期は△10（前回見通し△7）へ持ち直しも、先行き10～12月期は△13と悪化の見通し。
- 経営上の問題点として最も多く挙げられたのは、引き続き「人材不足」、これに「売上げ・受注の不振」、「設備の老朽化」が続く。

1. 業況判断【図表1-1～1-4】

全産業の業況判断BSIをみると、2018年4～6月期実績は△11と、1～3月期（△5）から悪化し、前回調査時の見込み（△8）を下回った。足もと7～9月期実績見込みについても△8と前回見通し（△6）を下回った。先行き10～12月期は△12まで悪化する見通しであり、景況感は弱含みの状況。

業況判断の内訳をみると、「好転」企業は、18年4～6月期実績15%、足もと14%、先行きは9%と減少する見通し。また「悪化」企業は、4～6月期実績26%、足もと22%、先行きは21%と減

図表1-1 全産業の業況判断BSI推移
「好転」-「悪化」



少する見通し。一方、「不変」企業についてみると、18年4～6月期実績59%、足もと64%、先行き70%と増加し、先行き慎重な見方。

主要製造業が概ね高めの操業を維持し堅調推移、公共投資・住宅投資は高水準を維持し横這いの状況。こうしたなか、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の世界遺産登録の効果から、足もとの景況感は観光関連の業種を中心に持ち直し。もっとも大雨や台風、記録的な猛暑などの天候要因もあって持ち直しの動きは弱く、先行きについても原油高の影響などから弱含む見通し。

(注1) 2017年7月の原油価格(月央値)は48.35ドル/バレルに対し、18年7月は76.68ドル/バレルであった。

◆雇用規模別・地域別

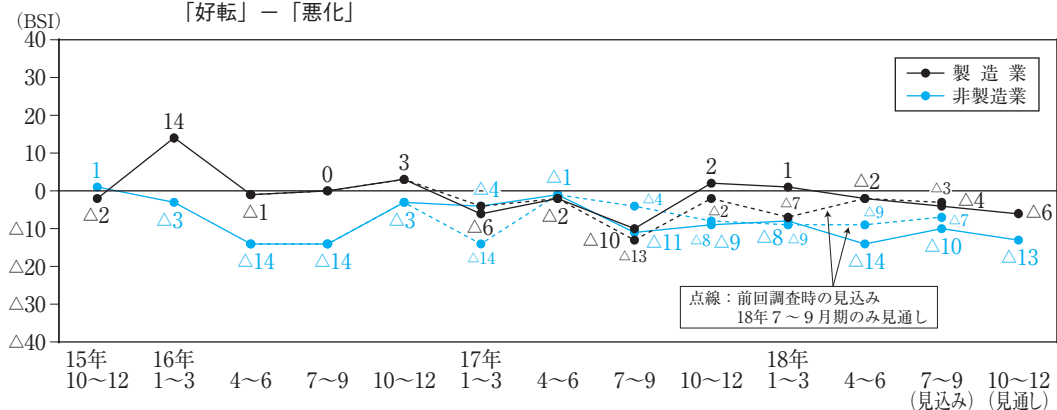
雇用規模別にBSIをみると、常用雇用者数(パートを除く)が「100人以上」では先行き△8、「20人～49人」では△12とBSIは悪化の見通し。

地域別にBSIをみると、島原地区と県央地区は先行き持ち直し。一方、長崎、県北(佐世保)、離島地区は先行きBSIが悪化の見通し。

雇用規模別・地域別BSI

項目	社数	前期実績 (4～6月期)		今期 (7～9月期)			来期 (10～12月期)		
		前回の 実績見込み	実績	前回の 見通し	実績見込み	変化の 方向	見通し	今回実績 見込み比	変化の 方向
雇用規模	19人以下	△22	△35	△5	△13	→	△16	△3	→
	20～49人	△7	△9	△8	△7	→	△12	△5	→
	50～99人	△8	△15	△3	△13	→	△15	△2	→
	100人以上	△13	△4	△8	△4	→	△8	△4	→
地域	長崎	△14	△11	△11	△8	→	△14	△6	→
	県央(諫早・大村)	△17	△20	△10	△13	→	△9	4	→
	島原	4	△20	0	△15	→	0	15	→
	県北(佐世保)	△7	△2	2	△5	→	△12	△7	→
	離島	△5	△20	11	△5	→	△10	△5	→

図表1-2 製造業・非製造業別 業況判断BSI
「好転」-「悪化」



図表1-3 業種別 業況判断BSI推移 (直近2年)

(BSI)

業種	過去の調査の実績						今回調査		
	2016年	2017年				2018年	2018年		
	10~12 月期	1~3 月期	4~6 月期	7~9 月期	10~12 月期	1~3 月期	4~6 月期	7~9 月期	10~12 月期
全産業	△2	△5	△2	△11	△6	△5	△11	△8	△12
製造業	3	△6	△2	△10	2	1	△2	△4	△6
輸送機械	25	△9	△17	0	△9	9	0	△9	0
一般機械	△46	△33	△50	△50	△17	△27	△33	△8	△34
電気機械	18	27	0	0	10	18	27	18	27
食料品	4	△4	21	8	22	20	13	△9	△4
その他	3	△7	3	△11	△7	△12	△13	△3	△13
非製造業	△3	△4	△1	△11	△9	△8	△14	△10	△13
運輸	△13	△29	14	△9	△19	△25	△30	△30	△27
水産	△20	△50	△25	△60	△50	△75	△75	△75	△75
建設	△4	11	△2	△4	7	13	0	△16	△20
卸売	△4	△9	△13	△15	△12	△15	△23	△1	△15
小売	2	△2	△6	△14	0	4	△11	△11	△14
サービス	△2	16	8	△15	△22	△18	△5	0	4
その他	25	△12	6	12	25	31	7	23	23

図表1-4 業種別 (細分類) 業況判断BSI及び企業割合の推移

(%, BSI)

業種	2018年1~3月期				2018年4~6月期				2018年7~9月期				2018年10~12月期			
	(実績:前年同期比)				(実績:前年同期比)				(実績見込:前年同期比)				(見通し:前年同期比)			
	好転	不変	悪化	BSI	好転	不変	悪化	BSI	好転	不変	悪化	BSI	好転	不変	悪化	BSI
全産業	18	59	23	△5	15	59	26	△11	14	64	22	△8	9	70	21	△12
製造業	20	61	19	1	23	52	25	△2	18	60	22	△4	13	68	19	△6
輸送機械	18	73	9	9	9	82	9	0	9	73	18	△9	18	64	18	0
一般機械	18	37	45	△27	17	33	50	△33	25	42	33	△8	8	50	42	△34
電気機械	27	64	9	18	45	37	18	27	36	46	18	18	36	55	9	27
食料品	32	56	12	20	35	43	22	13	17	57	26	△9	9	78	13	△4
非製造業	17	58	25	△8	12	62	26	△14	12	66	22	△10	8	71	21	△13
運輸	10	55	35	△25	8	54	38	△30	8	54	38	△30	6	61	33	△27
道路旅客運送業	7	43	50	△43	7	50	43	△36	7	57	36	△29	0	64	36	△36
道路貨物運送業	13	62	25	△12	13	56	31	△18	6	50	44	△38	6	63	31	△25
水運業	0	50	50	△50	0	50	50	△50	0	37	63	△63	13	37	50	△37
水産	0	25	75	△75	0	25	75	△75	0	25	75	△75	0	25	75	△75
建設	22	69	9	13	16	68	16	0	2	80	18	△16	4	72	24	△20
卸売	14	57	29	△15	7	63	30	△23	16	67	17	△1	6	73	21	△15
機械器具卸売業	15	62	23	△8	8	69	23	△15	15	77	8	7	8	77	15	△7
建築材料卸売業	9	73	18	△9	13	74	13	0	38	49	13	25	0	75	25	△25
小売	22	60	18	4	16	57	27	△11	14	61	25	△11	5	76	19	△14
各種商品小売業	20	60	20	0	0	67	33	△33	11	78	11	0	0	100	0	0
機械器具小売業	27	60	13	14	27	53	20	7	20	60	20	0	13	67	20	△7
サービス	11	60	29	△18	15	65	20	△5	16	68	16	0	15	74	11	4
その他	30	30	40	△10	30	50	20	10	40	60	0	40	30	70	0	30

(1) 製造業 (図表1-2、1-3、1-4)

製造業の業況判断BSIは、18年1～3月期実績1から4～6月期実績△2（前回見込み並み）とマイナス圏となり、7～9月期△4（前回見通し△3）、先行き10～12月期も△6と小幅ながら悪化の見通し。

◆業種別

輸送機械（18年1～3月期実績 9 → 4～6月期実績 0 → 7～9月期実績見込み △9 → 10～12月期見通し 0、以下同順にBSIのみ表記）のBSIは、1～3月期9から4～6月期実績0、足もと7～9月期は△9と大きく悪化。先行き10～12月期については0と持ち直しの見通し。高めの操業ながら、マーケットの長期低迷や低船価が続く厳しい環境にあり、大手造船所の受注減など不透明感が強い。

一般機械（△27→△33→△8→△34）では、BSIは4～6月期実績△33から足もと7～9月期△8へ持ち直しも、競争激化による受注残の減少、操業度の低下などから10～12月期は△34と悪化の見通し。

電気機械（18→27→18→27）では、BSIは足もと7～9月期18、10～12月期は27と回復の見通し。

食料品（20→13→△9→△4）では、物流費や包装資材価格の上昇によるコストの増加や大雨、台風、猛暑の影響などから足もと7～9月期は△9と前期（13）から大幅に低下。世界遺産登録による観光客数の増加への期待などから、先行き10～12月期は△4へと持ち直す見通し。

(2) 非製造業 (図表1-2、1-3、1-4)

非製造業の業況判断BSIは、4～6月期実績△14（前回の見込み△9）から足もと7～9月期は△10（前回見通し△7）へ持ち直しも、先行き10～12月期は△13と悪化の見通し。

◆業種別

運輸（△25→△30→△30→△27）では、燃油費の高止まりによるコストの増加やドライバー不足などから18年1～3月期実績△25、4～6月期実績・足もと△30に悪化。先行きは△27とやや持ち直しもマイナス圏で推移の見通し。

このうち、**道路旅客運送**（△43→△36→△29→△36）では、4～6月期実績△36から、足もと△29へ持ち直しも、先行きは△36と悪化の見通し。**道路貨物運送**（△12→△18→△38→△25）は4～6月期△18、足もと△38に悪化し、先行きについては△25と持ち直す見通し。

水産（△75→△75→△75→△75）は、台風の影響などを受け水揚げが低迷し、実績・足もと・先行きとも△75の見通し。

建設（13→0→△16→△20）は、4～6月期実績0から、受注環境の悪化や技術者不足などから足もと△16へ大幅に悪化し、先行きも△20とさらに悪化の見通し。

卸売 ($\Delta 15 \rightarrow \Delta 23 \rightarrow \Delta 1 \rightarrow \Delta 15$) は、4～6月期実績 $\Delta 23$ から足もと $\Delta 1$ と持ち直しも、先行き $\Delta 15$ と悪化の見通し。消費関連では、猛暑で飲料の品薄が続いたほか、大雨や台風の影響で葉物を中心とした野菜価格高騰により消費者の節約志向が強まるなど、厳しい経営環境が続く。

うち**農畜産物卸売** ($\Delta 11 \rightarrow \Delta 63 \rightarrow 12 \rightarrow \Delta 13$) のBSIは4～6月期実績が $\Delta 63$ と大幅なマイナスとなったが、足もとは12まで大幅に上昇、先行きは再び $\Delta 13$ まで悪化見通し。**建築材料卸売** ($\Delta 9 \rightarrow 0 \rightarrow 25 \rightarrow \Delta 25$) は、足もと25へ回復も、先行きは $\Delta 25$ に悪化の見通し。

小売 ($4 \rightarrow \Delta 11 \rightarrow \Delta 11 \rightarrow \Delta 14$) では、4～6月期実績は $\Delta 11$ と前期(4)から悪化。足もと7～9月期は大雨や台風、猛暑の影響などもあり横這い、先行き10～12月期は $\Delta 14$ とやや悪化の見通し。

サービス ($\Delta 18 \rightarrow \Delta 5 \rightarrow 0 \rightarrow 4$) のBSIは、1～3月期 $\Delta 18$ から4～6月期実績 $\Delta 5$ 。足もと0、先行き4とプラス圏へ回復の見通し。このうち**ホテル・旅館** ($\Delta 10 \rightarrow 10 \rightarrow 40 \rightarrow 30$) は、1～3月期実績 $\Delta 10$ から4～6月期10とプラス圏に回復。世界遺産登録による観光客数の増加などから、足もと40と大幅に上昇、先行きも30と高水準が続く見通し。

2. 売上高、受注残高【図表1-5】

売上高BSI ($\Delta 8 \rightarrow \Delta 15 \rightarrow \Delta 12 \rightarrow \Delta 11$) は、18年1～3月期 $\Delta 8$ から4～6月期 $\Delta 15$ と悪化も足もと $\Delta 12$ 、先行き $\Delta 11$ と幾分持ち直す見通し。

受注残高BSIについては、**製造業** ($\Delta 8 \rightarrow \Delta 8 \rightarrow \Delta 1 \rightarrow \Delta 13$) は18年4～6月期実績 $\Delta 8$ から、足もと $\Delta 1$ に持ち直しも、先行き $\Delta 13$ と悪化の見通し。

図表1-5 調査項目別BSI

		2018年4～6月期			7～9月期			10～12月期見通し	
		前回実績見込み	今回実績	前回比	前回見通し	今回実績見込み	前回比	見通し	今回実績見込み比
売 上	全産業	△13	△15	↓	△8	△12	↓	△11	↑
	製造業	△9	△7	↑	△3	△13	↓	△8	↑
	非製造業	△14	△18	↓	△9	△12	↓	△11	↑
受 注 残 高	全産業	△9	△12	↓	△8	△10	↓	△14	↓
	製造業	△3	△8	↓	0	△1	↓	△13	↓
	非製造業	△11	△13	↓	△11	△13	↓	△14	↓
在 庫	全産業	6	5	↓	1	2	↑	1	→
	製造業	5	0	↓	△1	0	↑	0	→
	非製造業	6	7	↑	2	3	↑	2	↓
操 業 度 ・ 稼 働 率	全産業	△9	△10	↓	△5	△8	↓	△10	↓
	製造業	△4	△2	↑	△3	△7	↓	△9	↓
	非製造業	△10	△12	↓	△7	△7	→	△9	↓
雇 用 人 員	全産業	△30	△30	→	△30	△29	↑	△31	↓
	製造業	△26	△19	↑	△29	△20	↑	△21	↓
	非製造業	△31	△33	↓	△31	△33	↓	△33	→
販 売 価 格	全産業	6	4	↓	7	4	↓	2	↓
	製造業	5	0	↓	6	△3	↓	△3	→
	非製造業	7	5	↓	6	5	↓	5	→
仕 入 価 格	全産業	35	35	→	31	33	↑	31	↓
	製造業	42	39	↓	36	35	↓	38	↑
	非製造業	31	35	↑	29	32	↑	28	↓
採 算	全産業	△18	△18	→	△13	△20	↓	△22	↓
	製造業	△10	△5	↑	△8	△14	↓	△17	↓
	非製造業	△20	△22	↓	△15	△22	↓	△24	↓
資 金 繰 り	全産業	△4	△4	→	△4	△7	↓	△7	→
	製造業	0	△1	↓	△4	△8	↓	△5	↑
	非製造業	△4	△6	↓	△3	△7	↓	△7	→

3. 在庫、操業度・稼働率【図表1-5】

全産業の在庫水準BSI (5→5→2→1) は、小幅プラス(「過大」>「不足」)で推移の見通し。製造業(3→0→0→0)では、「適正」との回答割合は4~6月期以降、88%→88%→90%と9割近傍で推移。非製造業(6→7→3→2)では足もとやや過剰感がみられるものの、先行きは和らぐ見通し。

操業度・稼働率のBSIは、製造業(8→△2→△7→△9)では、実績△2から足もと△7、先行きは△9と悪化の見通し。非製造業(0→△12→△7→△9)は、足もと△7から、先行き△9と悪化の見通し。

4. 雇用人員【図表1-5】

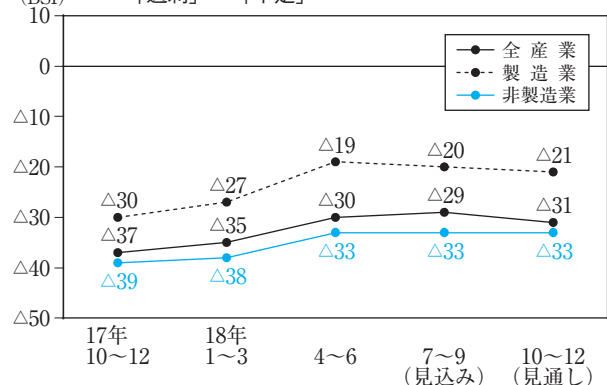
全産業の雇用人員BSI (△35→△30→△29→△31) は、大幅マイナス(人員不足)が続く見通し。

製造業(△27→△19→△20→△21)では、1~3月期から4~6月期にやや改善も、引き続き不足感が続く見通し。このうち食料品(△32→△26→△26→△31)、輸送機械(△18→△18→△27→△18)では足もと不足感が目立つ。

非製造業(△38→△33→△33→△33)でも大幅な不足感が続く見通し。このうち運輸(△58→△48→△42→△44)では、人員が「適正」との割合が先行きも4割台にとどまり不足感が強い。

※本調査における「雇用」とは、常用雇用者(パートを除く)。派遣社員は除く。

図表2 全産業・製造業・非製造業別 雇用人員BSI 「過剰」-「不足」



5. 販売価格・仕入価格【図表1-5】

全産業の販売価格のBSI (5→4→4→2) は、実績・足もとは4、先行きは2と小幅低下。

製造業(△2→0→△3→△3)では、4~6月期0から足もと△3(「低下」超)とマイナスに転じ、先行きも△3の見通し。

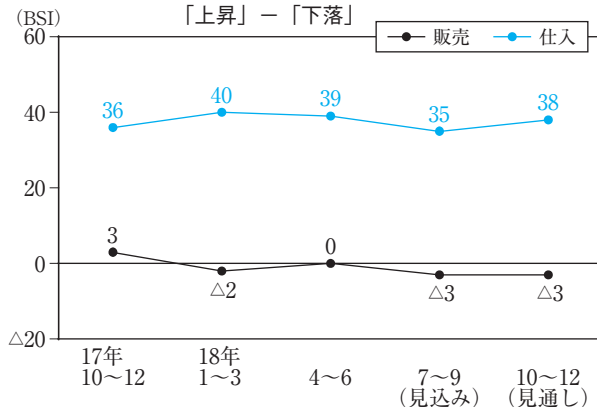
一方、非製造業(8→5→5→5)では、18年1~3月期8(「上昇」超)から4~6月期5へ低下したあと、足もと・先行きとも5が続く見通し。

仕入価格のBSI (34→35→33→31) は大幅なプラス圏(「上昇」>「低下」)にあり、1~3月期実績35、足もと33と上昇圧力が強く、先行きは31とやや低下も、原油や資材価格の上昇などを要因に高止まりが続く見通し。

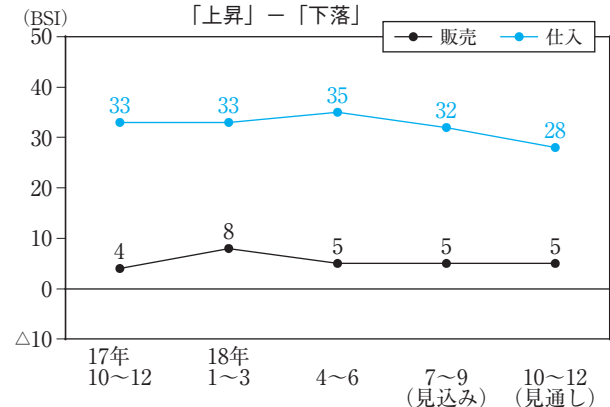
このうち製造業（40→39→35→38）ではとくに上昇圧力が強く、一般機械（46→42→42→42）は実績・足もと・先行き42と高止まりが続く見通し。非製造業（33→35→32→28）でも足もと、先行きはやや低下も高水準の見通し。

製造・非製造業とも仕入価格は上昇圧力が強いものの、販売価格は高まらず依然低位で推移している。原材料や資材価格が高止まりしているなか、販売価格への転嫁難もあって収益を圧迫し、厳しい経営環境が続いている。

図表3-1 製造業の販売・仕入価格BSI
〔上昇〕－〔下落〕



図表3-2 非製造業の販売・仕入価格BSI
〔上昇〕－〔下落〕



6. 採算、資金繰り【図表1-5】

全産業の採算（経常利益）BSI（△10→△18→△20→△22）は、4～6月期実績△18から、7～9月期△20、10～12月期△22とやや悪化する見通し。燃油費や人件費の上昇、物流コストの増加分の価格転嫁難からマイナス幅が拡大へ。採算が「好転」する企業の割合は19%→18%→12%→7%と先行きにかけて低下傾向にあり、厳しい経営環境が続く。

全産業の資金繰りBSI（△1→△4→△7→△7）はやや悪化し、足もと・先行きとも△7の見通し。

7. 経営上の問題点【図表4】

経営上の問題点（3つ以内の複数回答、全産業計）は「人材不足」が55%と依然高水準。これに次ぐのが「売上・受注の不振」（43%）、3位は「設備の老朽化」（28%）となった。また、水産業と卸売業では、物流コストの上昇から「諸経費（物流費、物件費等の増大）」が課題となっている。

（泉 猛）

図表4 業種別経営上の問題点
（3つ以内の複数回答）

業 種	第1位	第2位	第3位
全産業計	◆人材不足 (58%)→55%	◆売上げ・受注の不振 (40%)→43%	◆設備の老朽化 (27%)→28%
製 造	◇人材不足 (52%)→51%	◇仕入商品又は原材料の値上り (42%)→43%	◇売上げ・受注の不振 (38%)→42%
運 輸	◇人材不足 (64%)→62%	◇仕入商品又は原材料の値上り (34%)→45%	◇売上げ・受注の不振 (32%)→36%
水 産	◇設備の老朽化 (75%)→75%	◇省力化、合理化の遅れ (75%)→50%	◇売上げ・受注の不振 (0%)→25% ◇人材不足 (25%)→25% ◇諸経費（物流費、物件費等）の増大 (25%)→25%
建 設	◇人材不足 (78%)→74%	◇売上げ・受注の不振 (50%)→48%	◇労働時間の短縮 (25%)→26%
卸 売	◇売上げ・受注の不振 (48%)→49%	◇人材不足 (55%)→48%	◇諸経費（物流費、物件費等）の増大 (30%)→32%
小 売	◇人材不足 (59%)→55%	◇売上げ・受注の不振 (39%)→50%	◇設備の老朽化 (32%)→36%
サービス	◇人材不足 (60%)→59%	◇売上げ・受注の不振 (44%)→41% ◇設備の老朽化 (46%)→41%	

(注) 1. 各業種毎の回答先数に対する割合
2. ()内の数字は前回調査時（2018年5月）

■景況感の判断理由など（抜粋）

区分	状況の説明など
製造業	
造船	・労働時間の短縮については業務の効率化及び営業段階から現状に合った最適工期で受注できるよう交渉している。人材不足については（専門技術者）団塊の世代が退職していく中、業界全体として設計者が不足している。中途の未経験者でも雇用し教育している。
輸送機械	・まき網漁船の船価は安定していたが、近年、宮城県の造船所が低船価で受注しており、値崩れが懸念される。内航船の船価は上昇傾向にあるが、まだ期待したほどには上がっていない。 ・建造・修繕ともに順調に推移している。 ・短期集中的な工事が多いため、現業作業員（下請工）の確保が難しい。技術者・現業作業員の高齢化による技術力の低下が予想される。
はん用機械器具	・主要販売先の仕事量の減少により、売上、受注も引き続き減少している。新規取引先の獲得を行っており、やっとな実を結び多少ではあるが発注を頂いている。しかしながら、受注単価は安く利益にはつながっていない。
一般機械	・圧力容器や短納期品などの売上増があったものの、厳しい受注環境が続いており、主力の鍛圧機械が振るわず前年比で減収／減益となった。市況では国内外の設備投資の停滞感もあり受注環境については厳しい状況である。 ・直近の仕事量は確保しているが、部門によっては半年後激減する。（盛況な部門との差が大きい） ・コスト競争力をつけて、受注を増すことに注力しています。

電気機械器具	電機機械器具	・社員の数は増えたが受注も増えており、まだ、人材不足は否めない。
	〃	・技術職及び経理職の人員不足。老朽化設備を長年使用している。人員不足による納期遅れ、残業時間増加の懸念。設備更新や新規設備への投資。
	〃	・更なる業務改善・効率化による生産能力の向上。人材の計画的・中長期的な育成及び後継者の不足。
	〃	・新入社員との雇用と育成に力を入れる。
食料品	食料品	・物流費、包装資材等が上昇している。人員不足で募集しても人が集まらない状況。
	〃	・豪雨の影響で物流がマヒし、商品をお客様へ計画通りに届けることができなかった。
	〃	・贈答市場は安定しているものの暑さから個人消費は伸びていない。前回想定していたほどは土産市場は活況とはなっていないかもしれない。個人旅行が増える秋以降に期待したい。労務費や物流等の経費は上がっているの採算面は厳しくなると予想。
	〃	・中元の売上不振。遠距離配送により物流コスト増。
その他製造業	金属製品製造	・売上げ受注共に減少、仕入値が商品価格に乗せにくい。労働時間の短縮のため、無理な受注ができない。
	〃	・大手造船所からの受注残高が夏場以降減少してゆく見通しであり、他社への営業活動により取引先拡大を図っている。今後の事業展開が見込める分野への人員配置を優先的に行っている。
	パルプ・紙・紙加工品製造業	・人材獲得及び流出防止のため、ペースアップを継続している。
非製造業		
運輸	鉄道	・最近の原油価格の上昇により燃料軽油の価格上昇が収益圧迫要因となっている。
	〃	・経費節減等により、経常利益については例年通りの水準を確保したい。「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の世界遺産登録による観光客の増加に期待。
	タクシー	・為替相場111円前後で原油も70バレルと高水準となっている。現在ガソリン価格は高止まりしている状態である。
	〃	・今年は異常なまでの猛暑、タクシーは気候にも影響されやすく、当面乗車率が向上するものと期待している。
	道路旅客輸送	・原油価格の高騰や運転者不足が続いている状況。
	道路貨物輸送	・燃料の値上がりは落ち着きをみせているものの依然として高水準を続けており、採算が厳しい上に、人材不足のため稼働率が悪化している。
建設業	水運業	・燃料油（A重油）が上昇している。船員の最低賃金が上昇している。船員の採用が厳しい。
	総合工事	・練越工事が多く、現場は数多く稼働しているが、今年度の新規受注の確保が課題。公共工事の発注量や発注時期等の動向に影響を受けるため、将来予測が難しい状況。
	〃	・労働者不足が改善できない状況が続いており、その対応策として賃金を上昇させ雇用拡大を図ることとしたが工事の増加が厳しい中、経営を圧迫することが予想され、問題である。
	設備工事	・人材不足のため、1人1人が受け持つ工事の負担が大きくなり、受注したくてもできない事がある。その影響で売上が低下。50代が多く定年まで数年という人が続くが、若い人材が足りない。
	〃	・若年層の退職者が増加し、人材不足となっている。
	〃	・賃金の上昇と労働時間の短縮については労働生産性の向上を進める。人材不足については出前講座、インターンシップ、企業説明会等の他、会社アピールを進める。
卸売業	農畜産物	・7月に入り、全国的な大雨、そして、大雨後の干ばつにより、キャベツ、白菜、レタスを中心に相場高となっている。需要と供給のバランスにより、商品が皆に行き渡っての相場高であれば良いが、商品が皆に行き渡らない相場高では本来の流通ではない。
	〃	・相次ぐ震災、水害の影響から、特に飲料を中心に仕入難。一部に納品の遅延もある。世界遺産登録後の影響は現状少ない（今後に期待）。
	機械器具	・仕入の上昇に対して販売単価を上げているが、十分に転嫁できずに粗利率が落ちている。
	水産物	・序盤は好調であったがカツオ漁は単価が軟調に推移し、中盤からは量価共に苦戦。まだ数ヶ月漁期はあるが先行が不透明。度々台風の影響を受け、前年に比べて水揚量が低迷しており、今後も不安材料である。
小売業	食料	・納品価格を上げる事ができれば好転するが、なかなか話が進まないで厳しい。
	酒類	・酒類業界では、市場縮小が続く中で、物流費の上昇などによるコスト増、人手不足に伴う人件費の高まりなど、今後も経営環境はより一層の厳しさを増すものと思われる。
	陶磁器	・7月の大雨による岡山、広島への被害により、7月9日の週は出荷ができない日が続く。（運送業者のルートが確保できないため）徐々にルートは回復するものの、厳しい状況が続く。
	総合小売	・7月の西日本豪雨による影響において1店舗営業できない等の被害が発生。
小売業	石油	・原油価格上昇に伴う収益力の低下が大きな問題。今後も原油価格は更に上昇傾向にあり、高値による需要の減退も懸念され、増々収益力が悪化すると思われる。
	家電	・猛暑のおかげでエアコン、冷蔵庫を中心に売上を伸ばした。配達の人員が足りないぐらい好調な売上があった。インバウンド売上が去年が好調だったので、今年は苦戦。日本人向けの販促策を新たに実施し、売上を確保する予定。
	織物・衣類・身の回り小売	・売上増がなかなか見込めない。個性的カジュアル化と独占販売権のために新しいブランド開発メーカーを開拓中。
サービス業	旅館・その他宿泊所	・売上が順調に伸びたが、7月の大雨によりキャンセルが発生し、その後の予約発生も勢いを失った。
	その他の事業サービス	・宿泊部門は好調。ただし台風7号や豪雨によるキャンセルが発生した。夏休みに入りインターネット予約と勉強合宿、スポーツ団体が好調を維持している。
	運輸に付帯するサービス業	・7月に世界遺産登録等トピックスはあったが観光への影響は未知。一方、本年度の猛暑の影響で観光需要にマイナス影響を及ぼす可能性がある。気候の影響が大きく、残暑が長引いた場合、第2四半期（7-9月）の売上減につながる可能性が高い。
サービス業	〃	・「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が世界文化遺産に登録される等の追い風を受け、弊社でも様々な広報活動を通じて認知度を高めることで、例年よりも多くの観光客が国内外から利用してもらえるものと予測している。